

002

## アスピリン

別名	アセチルサリチル酸
分類	解熱鎮痛成分(サリチル酸系)
類似	アスピリンアルミニウム

- □ □ ★★★ サリチル酸系解熱鎮痛成分においてライ症候群の発生が示唆されており、アスピリンは、一般用医薬品では、いかなる場合も15歳未満の小児に対して使用できない。
- 
- □ □ ★★★ 医療用医薬品のアスピリンは、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬の成分としても用いられており、こうしたアスピリン製剤が処方されている場合には、自己判断で一般用医薬品の解熱鎮痛薬を使用できない。
- 
- □ □ ★★★ アスピリンは、血液を凝固しにくくするため、胎児や出産時の母体への影響(妊娠期間の延長、子宮収縮の抑制、分娩時出血の増加)を考慮して、出産予定日12週間以内の使用を避ける。
- 
- □ □ ★★★ アスピリン喘息は、アスピリンに特有の副作用ではなく、他の解熱鎮痛成分でも生じることがある。
- 
- □ □ ★★★ アスピリンは、成分名が「～ピリン」であっても、非ピリン系の解熱鎮痛成分である。
- 
- □ □ ★★★ アスピリンは、肝機能障害を生じることがある。
- 
- □ □ ★★★ 酒類との相互作用について、アルコールによる胃粘膜の荒れが、アスピリンによる胃腸障害を増強する。

- ★★★ 本剤の成分(アスピリン)又は他の**かぜ薬、解熱鎮痛薬**を使用して**喘息**を起こしたことがある人は、本剤を「**使用しないこと**」とされている。

〈理由〉**アスピリン喘息**を誘発するおそれがあるため

---

- ★★★ **妊婦**等は、アスピリンを使用する前に「**相談すること**」とされている。

〈理由〉妊娠末期のラットに投与した実験において、**胎児に弱い動脈管の収縮**がみられたとの報告があるため。また、動物実験(ラット)で**催奇形性**が現れたとの報告があるため

---

- ★★★ **授乳中**の人は、アスピリンを使用する前に「**相談すること**」とされている。

〈理由〉**乳汁中**に移行する可能性があるため

---

- ★★★ **胃・十二指腸潰瘍**の診断を受けた人は、アスピリンを使用する前に「**相談すること**」とされている。

〈理由〉胃・十二指腸潰瘍を悪化させるおそれがあるため

---

- ★★★ **肝臓病**の診断を受けた人は、アスピリンを使用する前に「**相談すること**」とされている。

〈理由〉**肝機能障害**を悪化させるおそれがあるため

---

- ★★★ **心臓病**の診断を受けた人は、アスピリンを使用する前に「**相談すること**」とされている。

〈理由〉むくみ、**循環体液量の増加**が起こり、心臓の仕事量が増加し、心臓病を悪化させるおそれがあるため

---

- ★★★ **腎臓病**の診断を受けた人は、アスピリンを使用する前に「**相談すること**」とされている。

〈理由〉むくみ、**循環体液量の増加**が起こり、腎臓病を悪化させるおそれがあるため

---